

関西潜水連盟 創立 40 周年をむかえて

理事長 玉田 純 人



昨年度より理事長に就任いたしました玉田純人でございます。KD Japan の長きにわたる歴史の中で、記念すべき 40 周年をむかえる年に、僭越ながら理事長に推挙され、心を新たに、微力ではございますが頑張っていく所存であります。会員の皆様におかれましても、さらに KD Japan が順調に発展し、次の節目の 50 周年も共に祝えるように、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私が関西潜水連盟と関わるようになったのは、まだ 10 代の大学生であった頃の 1980 年代前半で、大阪支部の山本進先生の OMS ダイバースクラブに所属させていただいた時からです。そのころは KD Japan という組織として独立していたのではなく、独立性を保ちながら、全日本潜水連盟 (JUDF) の地方支部のような形で活動を行っておりました。水中運動会や UWO (当時は、UWN, Under Water Navigation と言っておりました) 大会は、大阪支部と兵庫支部の担当で、それぞれ春と秋の年 2 回が開催されており、その他海の大掃除をはじめ、さまざまな行事が活発に行われていたように思います。これらの行事には、大学生のクラブや JUDF のショップだけではなく、今では考えられませんが、PADI など他団体のショップも参加され、関西のダイビング愛好者が、集い楽しむ一大祭典のような位置づけであったように思います。

その後、CMAS に加盟し、潜水指導団体として関西潜水連盟 (KD Japan) という組織が独立した後も、私は一貫して KD と活動を共にし、本部理事 (1990 年から現在まで) として、あるいは本部 UWO 委員長として大会の運営を経験した後、初代 KD 振興委員長として、インストラクターの意識調査を実施し、また、(故) 和田幸一郎さん、そして現 KD 振興委員長の大西文朗さんと続いていた教育委員長の職を引き継ぎ、教育に関連する種々の制度の整備や、多くのダイバーの方々のインストラクターへの昇格育成を、本部主催の ITC を通じて行って参りました。そのような功績により、10 年前の 30 周年記念式典では、最年少で功労者の表彰を受けることができました。

『関西潜水連盟・KD Japan』で新しい理事会制度が発足し、その中で、理事長が選出されるようになってから、早や 10 年近くが経過しようとしております。

この約 10 年の間には、規約や各種規定類が新規制定あるいは改定整備されたり、沖縄支部のような新しい支部が仲間入りを果たしたりして、その活動内容も大きく広がって参りました。

私は、『関西潜水連盟・KD Japan』は、業界では唯一ともいえる、アマチュアダイバーとプロダイバーの構成会員からなる潜水指導団体であるとともに、UWO 競技大会や水中運動会などの行事を毎年定期的で開催し、一方、海の大掃除などのボランティア活動および救急救命法講習やクラブを通じた、ろうあ者の皆様へのスポーツダイビングの普及など、社会貢献活動も重視した、会員相互が安全潜水の推進と親睦を深めることのできる、大変社会的に意義のある団体であると自負しております。

前理事長であった才木会長の下、創立 50 周年に向けて、これまでの事業を継承しつつ、少しでも会員の皆様のご要望にお応えできるように、今後 10 年間にますます関西潜水連盟を大きく発展させたいと思っております。

会員の皆様におかれましても、ますます当連盟が発展しますように、お力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。